

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>

Japanisch-Deutsche Gesellschaft
der Präfektur Chiba
〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1
清和会第2ワールドナースィングホーム内
電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

年頭のご挨拶

-千葉県日独協会会長 金谷誠一郎-

新年あけましておめでとうございます。

2020年1月6日に厚生労働省が、「中華人民共和国湖北省武漢市において、昨年12月以降、原因となる病原体が特定されていない肺炎の発生が複数報告されています。」と発表して以来、新型コロナが世界中で猛威を振るい始めて早2年となりました。

100年前の「スペイン風邪」は、3年で終息したとの事ですので、そろそろ下火？と考えていましたが、昨年末には「オミクロン」が出現、感染しやすいものの重症化しにくいとの特徴があるとのことで、引き続き油断が出来ない状況です。

ということで、多くの会員を集めましてのイベントは、避けるように配慮しておりますので、会員の皆様には大変申し訳なく感じております。

そのような状況ですが、昨年の6月19日に青壮年部の竹内理事と千葉大学卒業生でドイツ留学準備中の大野理事が協力して、千葉大学に留学経験のあるドイツ人青年を集めて、コロナ終息後の協会活動について具体的な活動内容のアイデアもいくつか出たようですので、先ず折を見て是非とも少しづつ実施していただきたいと思います。

その際には、興味のありそうな一般会員にも参加のチャンスを与えていただきたく宜しくお願い致します。尚、海外の一部に、「コロナ終息の兆候？」を示唆する声もあるようですので、終息後にはこれまで見送ったイベントを実施したいと考えております。

追悼

特別養護老人ホーム第2ワールドナースィングホーム理事長で当協会顧問の林 静誠様は、病氣療養中の所、1月19日に逝去されました。84才（享年85才）。

林顧問は、当協会の加藤初代会長の弟さんと共通の趣味で仲が良く、加藤会長の弟さんが、林顧問に「兄が千葉県日独協会を立ち上げるので、是非応援して欲しい。」とお願いしたとの事で、会員勧誘に大いに協力していただきました。

大使館、各地日独協会から当協会に届く郵便物の受け取り及び保管、転送などの窓口として、ナースィングホームの一部を利用させていただくなど、大変お世話になりました。

また、当協会発足以降のイベントで顧問が出席された行事の写真を1冊のアルバムに収めていただきました。厚く御礼申し上げますと共に、ご冥福をお祈り致します。

千葉県日独協会 会長 金谷 誠一郎

杉田副会長・事務局長-年頭の抱負

この2年間は行動の自由を奪われた状態で過ぎていったと感じます。約100年前のスペイン風邪がパンデミックを起こしたよりもひどい状況が、コロナウィルスにより世界を覆ってしまいました。そのような状況下、協会活動では会員の皆様と顔を合わせる機会が、僅かに2～3回あった程度でした。一方、ITを駆使すればほとんどの会議はリモートでもできるようになったことには感心させられました。工夫次第ではオンラインでの催しでも、臨場感のある体験がある程度できることを経験しました。コロナの収束までには今しばらく時間がかかるものと予想されますので、今後しばらくはオンラインを積極的に活用して、多くの会員に参加していただき、協会活動を盛り上げてゆくことで乗り切って行きたいと思っています。具体的な活動を行うことにより、「やる気」、「参加する気」が起きます。さもないと、この2年間で、15名の退会者があったように、会員数減少に歯止めがからなくなってしまうことを恐れています。一方、最近青壮年部が活動の中心となり、ITを自由に使いこなして新たな活動領域に精力的に取り組んでいます。協会のベースとなっている「ドイツ軍人慰霊祭」（日独友好と平和のシンボル）を確実に引き継ぎながら、多くの会員が参加し、楽しみを実感できる催しを実現したいです。



木戸副会長-年頭の抱負

皆様、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、当協会創立25周年の記念すべき年ではありましたが、コロナ禍のなかで式典も祝宴も挙行することが叶いませんでした。しかしそのなかで、青壮年部のメンバーが中心となり、2つの特筆すべきイベントを成功裏に開催できましたことは、次の30周年に向けての明るい未来を予感させるものがありました。ひとつはオンラインによる日独の若者交流であり、もうひとつはドイツ大使館から助成金を受け実現したオンライン講演会です。

今年は、次善の策としてのオンラインというよりも、むしろ積極的にオンラインを活用した取り組みを考えて参りたいと存じます。国内の日独協会、ドイツの独日協会ともオンラインを通して交流を深めたいと思います。また当協会には、さまざまなバックグラウンドをもつ多士済々の人材がおります。会員の皆様の豊かなご経験談をお聞きしながら、親しく歓談する「Stammtisch」のようなものも実現できないかと考えております。

同時に、従来からの食歩きの会、ビール祭り、ワイン試飲会、クリスマス会、新年会、バス旅行、ドイツ旅行など、一連の対面による行事の復活する日が一日も早く戻ってくることを願っています。ドイツ軍人慰霊祭も、今年は簡略された形ではないフルスペックで行うことができるよう祈っております。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



駐日ドイツ連邦共和国大使館 Dr. Clemens von Goetze大使 ご夫妻との懇談会

駐日ドイツ大使館からの要請による懇談会が、令和3年11月30日に船橋市内で開催されました。短時間での設定であったため、当協会からは金谷会長の他、参加可能な役員と関係者の数名が参加しました。懇談会は、大使から当協会が、毎年11月のドイツ軍人慰霊祭開催などの活動をしていることについての謝辞に始まり、終始和やかで友好的な雰囲気で行われました。

当日は、千葉県知事表敬訪問、銚子の洋上風力発電設備及びBMWセンター印西の視察を終えてその帰路にわざわざ、当協会が毎年開催している習志野捕虜収容所の慰霊祭及びその他の協会活動への謝意と友好関係の強化のために懇談会を企画していただいたものです。

大使からは、習志野の俘虜収容所でドイツソーセージの作り方が俘虜のカルヤーン氏らから日本側に伝授されたり、近隣住民が俘虜収容所を見学に訪れるなどの交流が行われていた等、開放的であったことに興味を示されたので、「1907年にオランダのハーグで制定されたハーグ陸戦条約の中に「捕虜は人道的に扱うべし」との一項があり、俘虜収容所の西郷寅太郎所長はこれを遵守していたと思われる。」ことなどをご説明致しました。

当方からは習志野捕虜収容所のアルバム、活動状況報告、日独交流150周年記念に大使館から贈られた菩提樹の写真集などの資料を持参し、過去からの活動の説明を行いました。

着任から約2カ月にもかかわらず、懇談会ではご夫妻で気さくに参加者に接していただいたことにより、一層ドイツ大使館との関係が深まり、今後の協会活動のためにも有意義な会合となりました。

(常任理事：志賀 久徳)

Dr. Clemens von Goetze大使の略歴-大使館HPより抜粋

- 1962年 3月29日ベルリン生まれ
- 1990年 ドイツ外務省入省
- 2009年 連邦大統領府外交局長(大使) (外交・安全保障・欧州・開発政策)
- 2012年 本省政務局(第3局) (アフリカ、アジア、中南米、中東) 局長(大使)
- 2015年 駐イスラエル大使
- 2018年 駐中国大使
- 2021年 駐日ドイツ連邦共和国大使

大使のコメント

「ドイツと日本は、基本的価値と利害関心を共有し、国際問題で多くの場合共通の立場をとり、経済、科学、文化の各分野で緊密な交流を行っています。両国の協力を一層強化していくのは当然のことなのです」

先人たちが遺したもの 「ドイツ食文化を広めたパイオニアたち」 -金谷会長パネリストとして登壇-

ドイツ大使館主催、日独交流160周年記念特別討論シリーズ「先人たちが遺したもの」が昨年11月16日(火)にオンラインにて開催されました。テーマは「ドイツの食文化を広めたパイオニアたち」。司会進行はドイツ大使館のホーボルト文化部門専門官、パネリストとして当協会金谷誠一郎会長、(有)ハム工房ジロー矢島二郎代表、パネリストとして登壇された金谷会長(右)(株)ユーハイム白石賢次郎関西支社長、エビスビール記念館大登貴子館長、そして特別ゲストとしてドイツ農産品・食品振興普及日本事務所から乾美帆コンサルタントが参加されました。

第一次世界大戦時、全国に点在した俘虜収容所にいたドイツ人が「遺したもの」はたくさんあります。その一つが今日の習志野ソーセージです。金谷会長はソーセージの製法が伝授された経緯や、当時の習志野俘虜収容所の様子を説明されました。また他のパネリストの方々も、それぞれに伝わるソーセージやバウムクーヘン、ビールのルーツについて詳しく紹介下さいました。その様子はYouTubeにアップされていますので是非ご覧ください。

<https://youtu.be/7y6BVmMXiCo>

私たちにとってとても身近なドイツの食品や飲み物がどのように伝来したのか、また、これまで守り、伝えてきた方々の情熱やご苦労を実感できる、大変興味深いイベントでした。

(常任理事：本橋 緑)

青壮年部の展望 -青壮年部活動の更なる活性化に向けて-

昨年6月に実施した青壮年部懇談会で議論された今後の協会活動への提言で出された活発な意見は、大別すると3つに分かれます。ドイツとの関わり、他の国内日独協会との連携を強化する方向、ドイツに関する知見を得る機会、懇談会等のイベントの開催、Die Eicheをはじめとする対外発信力の強化となります。この方向性の一つとして昨年12月、協会設立25周年記念並びに日独交流160周年記念講演会を実施致しました。また、昨年は、偶数月には、定期的に青壮年部会を開催することに努め、部としての組織活動の活性化に着手しました。その目的は、先にあげた3つの方向性について各部員の意見を尊重し、次なる活動の組織力の醸成がその狙いにあります。この部としての活動の活性化は、今年、対外活動を進めるうえでも内なる知見、発信力がなければ、対外活動を提携先とWin-Winで進めることができないからです。来年度は、いくつかのドイツを知るための活動も計画したいですが、青壮年部内における勉強会(仮称)を通じて、内なる知見の充実を図って、自分たちが外に向かって発信できる準備をしていけるとよいと考えております。一緒にご参加ください。(常任理事：勝見 浩明)

最新ドイツ事情

理事 大野 巨児

こんにちは。昨年10月よりドイツ東部ザクセン州のライプツヒに留学しております、大野です。

まずコロナ禍における現在のドイツの日常生活は、3つの“G”を抜きに語ることはできません。Geimpft（ワクチン接種済み）・Genesen（快復済み）・Getestet（テスト済み）の3種のステータスを指し、店への入店、文化・娯楽施設の利用、イベントへの参加などに際して、所定の証明の提示が求められます。



クリスマスの朝、街中の小高い山

コロナ政策の具体的な実施は各州政府に任されていますが、自身の暮らす同州では昨年11月末、ちょうど待降節の期間が始まる直前に新規感染者数の急激な増加を受け、映画館やコンサートホール、博物館といった施設が全て閉鎖を余儀なくされました。開催が目前に迫っていたクリスマスマーケットも急遽中止が決定、クリスマスの時期に欠かせないコンサートも軒並み中止に。そうした状況が続いた中、先日1月14日より規制が一部緩和され、ようやく各施設が再びオープンできるようになったのです。



開催直前のクリスマスマーケット

大学での授業も冬学期の初めは対面で行われていましたが、次第にオンラインへ切り替えとなりました。4月からの新学期がどのような様相を呈するか、希望とともに今後の動向を見守りたいと思います。

新人会員紹介

本名 龍児

はじめまして！

昨年12月に入会致しました海上自衛隊の本名と申します。

第一次世界大戦中のドイツ捕虜収容所及び当時流行したインフルエンザに関心を持っていたところ、友人である在京ドイツ大使館武官カーستن・キーゼヴェッター大佐（Karsten Kieseewetter）に習志野でのドイツ軍人慰霊祭について聞かされ、2020年及び2021年の慰霊祭に参列したことがきっかけで入会させていただきました。

早速、ドイツ語入門研究会におきましてドイツ語の基礎に加え、ご参加の皆さまの駐在経験などを基にしたドイツ文化などについてご教示賜っており、感謝申し上げます。

千葉県日独協会での活動を通じてドイツ語能力の向上とともに、一層のドイツ文化への通暁を図りたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



慰霊碑と筆者



献花をする筆者

激動期のドイツを体験



ドイツと私 - 塚原 浩毅

協会誌への寄稿をお許しいただきありがとうございます。私のドイツの思い出を2つご披露させていただきます。

＜パイロイト音楽祭訪問 1980年＞ 中学2年生のとき偶然FM放送で耳にしたワーグナーのオペラに嵌り、原語で理解できたら、という野望からドイツ語への関心が生まれ東京のゲーテなどで勉強しました。難解な韻文テキストの理解など今に至るまで遠い彼方なのですが・・・学生時代にパイロイトを訪問すべく毎年チケット入手に八方手を



パイロイト祝祭劇場全景

を尽くしましたが叶わず、最後は音楽祭事務局宛てに直訴状を送るという蛮行に及びました。事務局長からは特別扱いはしないという丁寧な返事をいただきましたが、何と大学4年の夏、希望する全公演のチケットが入手できました。パイロイトに10日間、そのあと南ドイツを気の向くままに10日間歩き回った貧乏旅でしたが一生の財産になりました。

＜ベルリンの壁 1989＞ その後金融機関に就職し、1989年5月にデュッセルドルフ支店に赴任。ドイツ語のスキルアップのため6月からキムゼー湖畔グリーンにあるゲーテで2か月間ドイツ語に浸りました。当時欧州はザワついており、クラスの半数は東欧共産圏から逃避し西ドイツで職を求めるためにドイツ語を勉強してきた人達でした。直後に起こったのが天安門事件。共産圏と



2010年再訪時 ECB(欧州中央銀行) 前

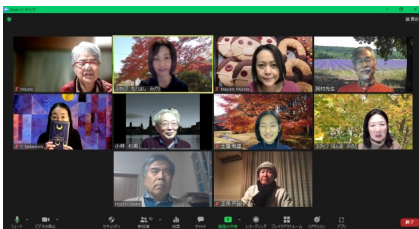
対峙していた西ドイツの報道は連日遠い中国の事件で一色でした。東欧圏から逃れてきた人たちは中国共産党を激しく非難しましたが、「自由」とか「体制」などの概念とは無縁の世界で育った私は議論に加わることは出来ませんでした。世界の中では日本が異質なのだということを学んだ事件でした。しかし、そのとき、同じ年の11月のベルリンの壁を予測していたドイツ人はいなかったと思います。ゲーテの若いチューターは「60年代以降に生まれた僕たち若い西ドイツ人にとって、東ドイツは偶然ドイツ語を話す外国である」と言っていました。ベルリンの壁から東西ドイツ統合に至る過程は協会会員の方はよくご存じかと思います。歴史は人知を超えた力で動くということを学んだ1年でした。

その後出張やプライベートでドイツを訪れました。数年後リタイヤしたら、今まで果たせずにいる旧東ドイツの諸都市を巡ってみたいと思っています。

ドイツ語講座実施報告

-ZOOMを使ったオンライン授業-

昨年10月2日から12月11日まで 隔週土曜日に6回にわたり「Zoom」オンライン形式によるドイツ語講習会が開催されました。講師は前年に続き当協会理事の岡村三郎先生（早稲田大学名誉教授）、今回



オンライン授業の授業風景（岡村先生：上段右端）

の教材はライナー・クンツェ著「Eine stadtbekannte Geschichte（町中が知っている話）」、1968年の「プラハの春」後のチェコを舞台とした物語です。ある日、プラハ中央駅切符販売係の主人公が街で老女性にすれ違った際、彼女の袖に油のしみが出来ることから物語が展開していきます。

受講者は7名、全員が会員の方でしたが、「Zoom」にはすっかり慣れた様子でスムーズに操作されていました。割り当てられた箇所を音読・和訳し、岡村先生から受講者へ文法的な質問や、訳した箇所について補足説明や質疑応答等、対面式と変わらない双方向型で行われていきました。岡村先生から丁寧に文法的な説明をしていただき、そうだったのか、と改めて学ぶことが多々あり、大変有意義な時間でした。更に、岡村先生から嬉しいご提案があり、今年1月から5回の予定で同じ教材を引き続き皆さんと読んでいくことになりました。物語は今後どう進んでいくのでしょうか？ 継続講習会が終了したら、またご報告したいと思います。Bis bald！

（常任理事：本間 実里）

書籍/Buch

„Die Deutschen und die Polen“（ドイツ人とポーランド人）副題として“Geschichte einer Nachbarschaft”（隣人関係の歴史）とあるようにドイツとポーランドの関係について歴史的な考察を行っている書籍とDVDの紹介です。書籍版もDVD版も同じ著者 Andrzej Klamtが携わっています。ポーランドとドイツの1000年にわたる時間におけるドイツとポーランドとの関係性から始まり、民族間の交流、ドイツ→ポーランドへの流入、同時にポーランド→ドイツへの流入のテーマ、東西におけるユダヤ人、このドイツとポーランドを語るうえで欠かすことができないユダヤ人のテーマを取り上げています。領土的な交錯による対立、民族国家的な位置づけ、宗教の視点から両者を語るなど、また、DVDでは、敵対関係からEU構成国に



書籍版



DVD版

至るまでという視点でまとめています。この地域に関心あるかたにはお勧めです。

書籍は、AMAZON ¥632-、DVDは、AMAZON ¥2,771-（常任理事：勝見 浩明）

訃報

比田勝 孝昭 会員

2021年12月7日、心不全にてご逝去。93才。12月16日奥様より電話でご連絡あり。ごく最近まで現役医師としてご活躍されていました。ご本人の遺志により、身内のみで葬式を執り行った。散骨し、墓は作らないとのこと。奥様（喜美子さん。当協会会員）は、これを機会に退会されます。

林 静誠 顧問

2022年1月19日、病氣療養中にご逝去。84才（享年85才）。

1995年11月19日当協会創立の基礎となった「ドイツ軍人慰霊祭」を実行委員長として企画、実施くださいました。千葉県日独協会設立にあたり、事務所として「清和会」（現第2ワールドナースィングホーム）を拠点として提供していただきました。協会設立後は、2001年まで理事長として、協会活動を導いてくださり、以後は、顧問として協会活動をご助言をいただきました。通常の協会活動においては、理事長である「清和会」の事務所を本協会事務局として活用させていただいた上、ドイツ軍人慰霊祭に当たっては、自衛隊習志野駐屯地での支援活動等にも尽力され、「直会」の開催場所の確保でも貢献くださいました。



今後の予定

【理事会】

日時 4月9日（土） 16:00-17:30
場所 中央公民館 第9集会室*

【総会】

日時 4月23日（土） 15:30-17:30
場所 中央公民館 第8集会室*

* 開催場所につきましては、今後のコロナの状況推移によって変更になる可能性があります。別途、開催案内をご覧ください。

会員情報

新人会員 竹内 莉理 立川市

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人

清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

コロナの猛威が収まらない状況が数年続いています。欧州も新規感染数の増加傾向が終息に至っていない中、イギリス、オランダなどの一部の欧州では、コロナ規制の大胆な緩和処置が行われようとしています。これには賛否両論があるでしょうが、このような状況に対して人々の働き方も大きな変化が出ているかと思っています。在宅勤務の拡大による仕事の仕方は、従来の働き方と大きく異なります。そのような状況下、協会活動もオンラインでの活動を展開してまいりました。さらに今後は、より一層、協会外部の日独協会や独日協会と連携を深めるなど活動の場を広げる活動も視野に入りたいと思っています。（勝見 浩明）